

防災の日を通して

9月1日は、防災の日でした。この日は、1923年に発生した関東大震災をきっかけに、地震や災害への備えと意識の向上を促すために制定されたそうです。

関東大震災では、東京を中心とした広範囲に甚大な被害をもたらし、多くの人々が犠牲になりました。この大震災での教訓を忘れないように、災害時の対策や防災教育が大切だと言われています。

今年も、防災の日に合わせて園では避難訓練や引き取り訓練を実施しました。（保護者の皆さま引き取り訓練のご協力ありがとうございました）

それに加え8月末には法人合同避難訓練。9月中旬には、ビル内での避難訓練を実施しています。

★法人合同避難訓練では…各園の被害状況の確認・連携のとり方を実際にやってみました。

あわせて、ケガ人の対応も取り入れています。今後は防災無線を導入し、電波のない状況でも連携がとれるようにしていきます。

★ビル内の避難訓練では…地震後、園内の厨房から出火。消火器や消火栓を使っての初期消火の手順を把握しました。それと同時に子ども達の避難誘導もおこなっています。いつもは、誘導のみでしたが、被害を最小限にする初期消火をやることで、より緊迫感がありました。

8月の職員園内研修では、東日本大震災（3・11）を体験した人の話をビデオでみて、マニュアル通りにいかない個々の「何が出来るか？」を探ることの大切さを知り、災害への意識が高まりました。

災害は、いつやってくるかはわかりません。

人間の心理として、「まさか自分にはそんな災害は起きないだろう」という、**※正常性バイアス**が働いてしまうことがあります。そうすると、避難が遅れてしまうのです。

※正常性バイアスとは…予期せぬ事態に直面した時、「こんなことが起こるはずがない」「大したことはない」「自分だけは大丈夫」と楽観的な方向に錯覚する心のメカニズムのこと。

保育園は、災害弱者（理解力や判断力の乏しい乳幼児）の施設です。

日頃の訓練の中で、逃げる習慣をつけていけるよう、月に1回の避難訓練を実施しています。

ひなん たいせつ やくそく
避難をするときの大切な約束



ビルの5階にあるということ、全園児が非常階段を降りて避難していきます。

子ども達に伝えている約束「おかしも」を守り、人を押しついたりせず、順番を守って、喋らないでゆっくり歩いて降りていきます。

火災であれば煙を吸わないように口元を手で覆います。



地震の時には、机の下に素早く隠れます。どうやれば自分の身を守れるか？ 少しずつ考えられてきているようです。



「備えあれば患なし」のことわざのように、今後も引き続き、災害時に備え、子ども達と一緒に考えていき、たくさんの「もしも…」を考え備えたいと思います。

（橋本美香）